

編集後記

今夏はパリ 2024 オリンピックが開催されました。「パリの空の下セーヌは流れる」と謳われ、名曲や名画の題材となった世界遺産ゆかりの歴史的な文化都市を舞台に、32 競技 329 種目で熱戦が繰り広げられ、観戦した人々の心に残る感動のドラマが数多く生まれました。

日本人選手の活躍も目覚ましく、メダルの獲得も金 20・銀 12・銅 13 の総数 45 個で、海外大会で過去最多となりました。どの競技種目もオリンピックへの出場権を獲得するだけで大変なのに、日の丸を背負っての重圧に負けず、メダルを獲得するとは素晴らしい快挙です。

アスリートたちの名言も忘れられません。印象に残った名言はいくつもありますが、特に胸に響いたのは「努力は天才を超える」を座右の銘とする柔道の阿部一二三選手の「絶対に無駄な努力ってないと思いますし、もし何かがかなわなかったとしても、その努力してきたことってというのは絶対に無駄にはなっていないと思うので、やり続けることってというのは大切だと思う」です。旧制四高柔道部員の言葉だと伝わる「練習量がすべてを決定する柔道」(井上靖『北の海』)を彷彿とさせます。時代を超え道に励む直向きな人間の姿が浮かびます。

「仲間に支えられて」「応援に背中を押されて」といった感謝の言葉も方々で聞かれました。チームジャパンのメンバーの一員として謙虚に振る舞い、結果が出れば素直に喜びを顕わにする姿は有り難く、不穏な世界情勢にあって明るい光を放ち、爽やかな風を吹かせました。

アスリートたちは誰一人、仲間のミスを責めたり、揚げ足を取ったりすることはなかったのですが、結果について不満を持った一部の人々が SNS を用いて匿名で特定の選手を誹謗中傷したことには心が痛みます。傷心の敗者に追い打ちを掛ける権利は誰にもありません。

今号は、2023 年度金沢星稜大学学会人間科学部会学術講演会の抄録 1 件、こども学科 2 件、スポーツ学科 1 件、人文学部 1 件、合計 5 件の投稿がありました。

どうぞ高覧ご批正くださいますよう、宜しく願い申し上げます。

2024 年 9 月吉日

編集委員長

馬場 治

《投稿された論文等に関する著作権は、基本的に人間科学部会に帰属します》
「金沢星稜大学学会 会則と規程等」については、下記の WEB サイトをご覧ください。

<http://www.seiryu-u.ac.jp/u/education/gakkai/research02.html>